

## 結婚 1 周年を迎えて

第 3 期 OB 熊谷 元

### ◆ まずは社会人として

今回 OBOG 会誌への寄稿に際して、頂戴致しました御題が「新婚生活」ということですが、冒頭から書かせていただくのはあまりに唐突ですし、これといった掴みもありませんので（ありふれた毎日が幸せだったりするわけです）、まずは私の仕事について近況報告をさせていただきます。

元ちゃんの雰囲気合わない、なんでそこなの？と周りからの怪訝な表情を振り切って、自分なりに考え抜いて選んだ会社で初志貫徹、今年 5 年目を迎えようとしています。入社当時からマーケティングの知識や考え方が直接活かせるような業務に就きたいという思いが強く、鉄道事業を基軸とした不動産開発や商業施設リニューアルなどの新規事業を推進するチームを希望しているのですが、現在のところ、会社から任せられた仕事は、①社員一人ひとりの人事評価を集約してボーナス査定や異動、昇進を確定する業務、②何十年先もの事業計画を勘案したうえで適切な資金調達手法を策定する業務の 2 つで、本人の希望は全く反映されていないというのが実状です。今の担当業務は後者ですが（OBOG に失笑されることを覚悟の上、書きますが）小野ゼミで身に付けた、限られた時間の中で一定のパフォーマンスを出す力や現状分析から真の問題点を徹底的に突き詰める姿勢などを武器に、銀行マンや証券マンといったカウンターパートに檄を飛ばす毎日です。リーマンショック以降、特に不確実性の高い市場環境が続いているため、弊社でも資金繰りが非常に厳しくなっています。ただ、いつ、誰が、どうやったとしても、同じような結果しか生まれないような環境とは違い、厳しい環境下だからこそ、一担当としてコミットできることは多いと肌で感じています。社会人 4 年目にして 15 年連れ添った少年ジャンプを日経新聞に持ち替え、自分の手がけた案件が記事とともに高く評価されているのを見ると、自然とテンションも上がってくるものです。

このように本人の希望と全く違う仕事をしていたとしても、意外に楽しめるのが社会人なので、現役ゼミ生である皆さんもすぐに結果を求めるのではなく、その環境を楽しめるようにじっくり腰を据えて働くことを意識してみてはいかがでしょうか。

### ◆ さて、そろそろメインテーマに

昨年 2008 年 1 月 26 日にアニヴェルセル表参道で親戚と友人中心の挙式を執り行いました。人生であれほど楽しい一日はなかったと断言できるほどに素敵な一日だったと 1 年経った今でも思います。結婚する旨を周囲に報告した際には、コンパ大好き人間がどうした？と驚く人も多かったわけですが、私個人としては若いうちに結婚してヤンパパになるのが夢でしたので、結婚を決断する際に悩むということはありませんでした。もちろん妻とは変わらず仲良くやっておりますので、私たち夫婦をご存じの皆さん、どうぞご安心ください。

結婚してからの生活は思っていたほど窮屈ではなく、むしろ自分だけでなく誰か（妻？）のために仕事をしているという思いの高まりから、我が家の稼ぎ頭である妻の帰宅が遅い時にはご近所さんの目も気に

せず、大根のはみ出たスーパー袋を片手に帰路につく、なんていうことも間々あります。また買い物の際には、20%OFFとか30円引きなどのシールがついているものをまずチェックするなど、いつでも専業主夫へ転職できるようスキルアップも欠かしません。週末は愛車のプジョー307に乗って、千葉界限をドライブ、ららぽーとにて買い物（ディズニーランドに行きたがる子供に対して、千葉県のお父さんお母さんはここがディズニーランドだよと、ららぽーとの遊技場を猛烈プッシュするとの逸話も）、最近はゴルフといった具合に気ままに2人の生活を楽しんでいます。

最後に熊谷家でよく話題になることなのですが、仕事とプライベートの両立について思うことを皆さんへのメッセージとして書かせていただきます。双方のどちらかにプライオリティを置くのか、またそのどちらかにプライオリティを置くことがそもそも早すぎるのではないかと、社会人になる前に今一度自分に問い直してもらいたいと思います。特に女性においては結婚・出産・育児と背負うものが自然と大きくなるため、気負って総合職で入社したものの、結婚してから、やはり特定総合職や一般職で入社しておけばよかった、なんて話はよく聞きます。女性の社会進出が進む中、斯かる事態を受けて、職種間での役割分担はもちろんのこと、その各個人のライフスタイルを大切にするような企業も増えました。周りが総合職で受けるから自分も！なんて短絡的に考えず、本当にその会社で自分らしく長く働くことができるのか、そこをじっくり見極めてもらいたいと思います。

…妻とも学生時代にこういう話をしっかりしておけば、喧嘩の原因が1つ減ったかもしれないと自戒の念も込めて。



表参道のケヤキ並木道を新婦と歩く著者